

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0177500204		
法人名	たきかわ介護福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホームともだちの家		
所在地	〒073-0044 滝川市西町2丁目3番47号 (電話) 0125-24-5055		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年3月11日	評価確定日	平成22年4月13日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、市内で建設事業を行っている開設者が地域福祉貢献を目指し設立した。「高齢者が住みなれた地域で自分らしい生活を大切にしたい」という理念に基づきケアに取り組んでいる。近隣にはデイサービス、病院、スーパー、公園などがあり、利便性が良い環境である。また、敷地内には花壇、野菜畑などもある。地域福祉の中心的存在となるよう努めている。

【情報提供票より】（平成22年2月1日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 15年 7月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	25人 常勤 12人, 非常勤 13人, 常勤換算 20.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造枠組み壁工法平屋造り造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	12,480~21,480 円
敷金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.75歳	最低	70歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	滝川市立病院、滝川脳神経外科病院、男澤医院、橋本歯科医院
---------	------------------------------

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連事項:外部4)
	前回評価での課題である災害対策については、全体会議の中で検討すると共に運営推進会議で報告し、全職員で取り組み改善している。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連事項:外部4)
	職員一人ひとりが自己評価に取り組み全体でまとめ、日々のケアの見直しの機会として捉えており、日常の利用者との関わりの中で活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、市担当者も含め地域の幅広いメンバーで構成し2~3ヶ月毎に開催している。会議では、利用者の生活状況や行事について報告し、意見交換を行い、出された意見等を事業所運営に反映するよう取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は日常的に家族との交流を図り、前向きな姿勢で気軽に話せる雰囲気づくりを心がけている。出された意見や要望は直ちに検討し、随時対応し、希望に沿えるよう努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、事業所便りを配布し理解協力を得ている。外出や買い物の際には挨拶を交わすなど、馴染みの関係となっている。子供達との交流、楽しみの集いも行い、行事などを通じて、地域との接点を持つよう努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「何時までも、その人らしく」をモットーとして、きめ細かなサービス提供を目指して、全職員の手で事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	誰にでも分かるように事業所内に理念を掲示し、日々のケアの中で理念に立ち返って話し合い取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、事業所便りを配布し理解協力を得ている。外出や買物の際には挨拶を交わし、馴染みの関係になっている。子供達との交流、楽しみの集いも行っている。行事などを通じて、地域との接点を持つよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価に取り組み全体でまとめ、日々のケアの見直しの機会として、日常の利用者との関わりの中で活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市担当者をも含めて地域の幅広いメンバーで構成し、2～3ヶ月毎に開催している。会議では、利用者の生活状況や行事について報告し、質問、要望を受けたり、意見交換を行い、事業所運営に反映するよう取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センター職員に事業所の実情やケアサービスの取り組み状況を報告、相談し、日常的に連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月末、家族に介護日誌のコピーをまとめたものや金銭出納帳、写真などを送付し、利用者の日常の生活状況等を伝えている。利用者の体調に変化があった場合は、その都度電話連絡を行い、対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、日常的に家族との交流を図り、気軽に話せる雰囲気づくりを心がけている。出された意見や要望は直ちに検討を行い、随時対応し、希望に沿えるよう努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や交代は少ない環境にある。異動や交代がやむを得ない場合は、十分な引継ぎと期間を設け、利用者のダメージを防ぐよう努力をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修は、なるべく多く計画的に行っている。参加後は、文書回覧などで報告、周知を図り、職員の資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との学習会、施設見学、相互研修での事例検討など計画的に参加し、情報交換を行い、サービスの質を高めるために活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族に事前見学、体験を勧め、納得できるまで時間をかけて対応している。職員は自宅を訪問し、利用者の希望や不安を聞いて、安心して利用できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から調理など学ぶなど、共に支えあう関係を築いている。また、花壇造成、野菜づくり、料理など、利用者の興味や能力に合った場面づくりを心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の思いや意向を把握し、センター方式を採用して記録することで職員全体で共有し、ケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状況は詳細に記録、整理し、毎月のケアカフェレンス会議で話し合い、家族の同意を得て、介護計画に反映している。利用者の目線を大切にしながら目標達成に向けて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にサービス内容について検討し、介護計画の見直しを行っている。利用者が体調変化を生じた場合は、随時家族に説明し、同意を得て計画の見直し、修正をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、かかりつけ医への受診やドライブ、散歩、買い物など、利用者の満足を得られるよう、個々の思いに配慮して柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診支援など、本人の状況に応じて支援をしている。週1度看護師に健康管理について相談できる体制を整備している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方についての指針、同意書を作成し、家族からの同意を得ている。家族や医療機関と連携し支援していく体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を守ることをケアの基本とし、言葉遣いや声かけなど気配りには十分留意し、職員一丸となって取り組んでいる。個人情報、関係書類は所定の場所に適切に保管し、慎重に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、その日の思いを汲み取り、個別性のある支援を行っている。職員全員が協力して柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の思いに沿いながら能力に応じて、職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。自由に楽しい雰囲気づくりに努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、自由に利用者の希望に応じて楽しみながら入浴できるよう支援している。入浴を好まない利用者には、さり気なく声かけを行うなどの配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や興味、関心など、状況を把握し、日々の暮らしの中で役割の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性化につながるよう、日常的に散歩や買物などに出かけている。季節に応じた行事を取り入れ、無理の無い外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠をしていない。玄関にはセンサーを取り付け、見守ることで対応している。居室に鍵は無い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年数回、防災訓練を計画し実施している。職員は救急救命、AED講習を受講し、緊急災害時の避難対策に対応している。また、夜間を想定した訓練を検討している。	○	利用者の安全確保の為に、事業所内のみでなく地域との非常災害における協力、協定など様々な視点から検討することを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量、水分摂取量を詳細に記録しており、職員はそれを共有し健康管理を行っている。メニュー確認も適宜行い、身体状況や病状に合わせた食事内容の工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は木材を多用し、清潔に保っている。椅子やテーブルなどを配置しており、思い思いの場所で過せる空間となっている。洗濯場、トイレ、浴室などは連動し、機能的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好み、馴染みの物を置き、居室は広く快適な生活空間となっている。自宅を思い出すような調度品もあり、安心して過せる居室となっている。		

※  は、重点項目。